



知床科学委員会 しんぶん

知床世界自然遺産地域 科学委員会 NO. 8



「知床で今何が起きているの!？」「どんな調査が行われているの!？」など、タイムリーな情報をお伝えします。

科学委員会って？

科学委員会は、様々な分野の専門家が集まり、知床世界自然遺産のよりよい保全管理のためのアドバイスをする組織です。科学委員会の下には、分野ごとに4つの関連会議が設置されています。

今回の会議

2月26日(木)に、北海道大学学術交流会館(札幌市)にて、今年度第2回目の会議がありました。

必見!
TOPIC

ユネスコへ「保全状況報告」を提出

2012年にロシアで開催された第36回世界遺産委員会では、知床における取り組みのうち2つの項目について追加報告するように要請されました。環境省と林野庁は、これら2項目に関する保全状況報告を2015年1月15日に提出しました。

この報告書は1月22日にUNESCO世界遺産センターに受理され、現在、ユネスコの公式ホームページで英文が公開されています。

私たちに課せられた宿題

ルシャ川でサケ科魚類の移動と産卵を確保するための、既存ダムの上なる改良。

トドの年間捕獲割り当て数と実際の捕獲数に関する情報の提供。遺産地域内のトドの個体数の動向の報告。

ユネスコに報告した内容

漁業関係者など地域の理解と協力を得ながら検討を行っており、2015年を目標に具体的な改良方法の決定を目指しています。

2009年度以降の数値と算出根拠、漁業被害の発生状況などについて報告。多利用型統合的^①海域管理計画に基づいた調査を今後も実施し、その結果について科学委員会などの助言を受けつつ、取り組みを進めていきます。



受理された報告書

知床は世界から注目されているんだね!



今回話し合ったこと

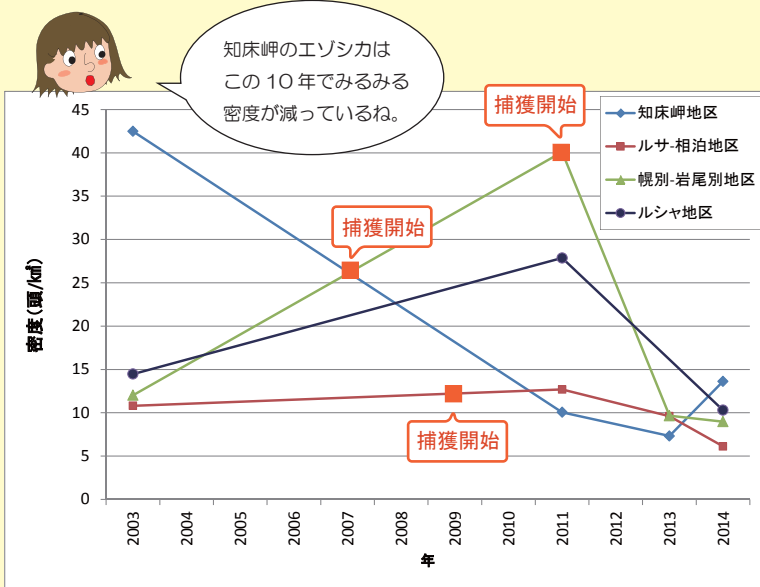
- ①各ワーキンググループ等の活動について
- ②長期モニタリングについて
- ③第36回世界遺産委員会決議への対応

注目!

エゾシカの捕獲、進行中です

この冬も知床ではエゾシカの数をコントロールするための捕獲が実施されています。遺産地域内では、エゾシカの生息密度が低くなってきており、これまでの捕獲による成果が表れてきています（下図）。

また、主に「囲いわな」による捕獲がウトロ・遠音別・真鯉といった遺産隣接地域の国有林でも行われ、半島全域での捕獲が本格的に始まり、雪が解ける4月頃まで予定されています。捕獲シーズン終了後の集計結果に今後注目です。



知床岬のエゾシカはこの10年でみるみる密度が減っているね。

注目!

海鳥が減っていく?!

知床で長期モニタリングの対象となっている海鳥は4種（ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミネコ）おり、その営巣地分布と営巣数の調査が行われ、評価されています。

調査はウトロ港〜知床岬

〜相泊港の海岸で毎年行われていきます。ケイマフリの個体数は2011年以降回復傾向にあり、2013年は個体数・営巣数ともに横這いでした。

一方、ウミネコとオオセグロカモメの営巣数は激減し、ウミネコの2013年の営巣数はゼロでした。繁殖前半である4月の低温と積雪が影響した可能性が考えられますが、餌不足やヒグマによる攪乱など他の要因も考えられます。今後の調査により、減少原因が明らかになることが期待されます。



ウミネコ

会議の内容をもっと知りたい方はコチラ

知床データセンター
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

他にも知床で行われている様々な研究データをご覧いただけます!

■問合せ先■
 環境省釧路自然環境事務所
 〒085-8639
 北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階
 TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

委員長の桜井です。



北海道大学大学院水産科学研究科・特任教授。岐阜の山奥（高山）生まれ。タラ類、イカ・タコ類の生態と気候変動と水産資源の変動について研究。最近ではイカ類の高鮮度流通の実用化に取り組んでいる。

この度、石城謙吉初代委員長、大泰司紀之前委員長に次いで、3代目の委員長に就任することになりました。私自身は、知床世界自然遺産登録前から知床周辺の海域の生態系の保全と沿岸漁業の共存に向けて、海域ワーキンググループの座長として参加してきました。今年は遺産登録から10年目を迎えます。これからの遺産地域の保全を活用した斜里町と羅臼町の繁栄に、微力ですがお手伝いさせていただきます。

委員長 桜井泰憲